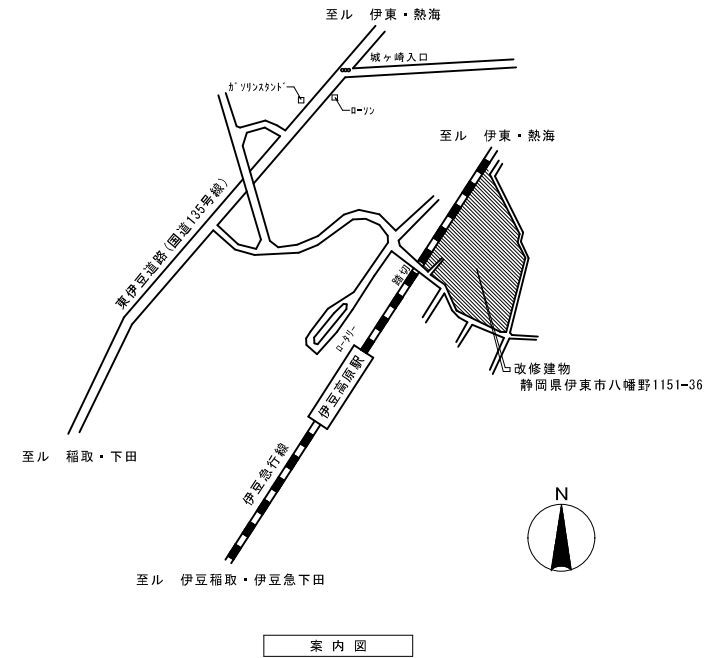
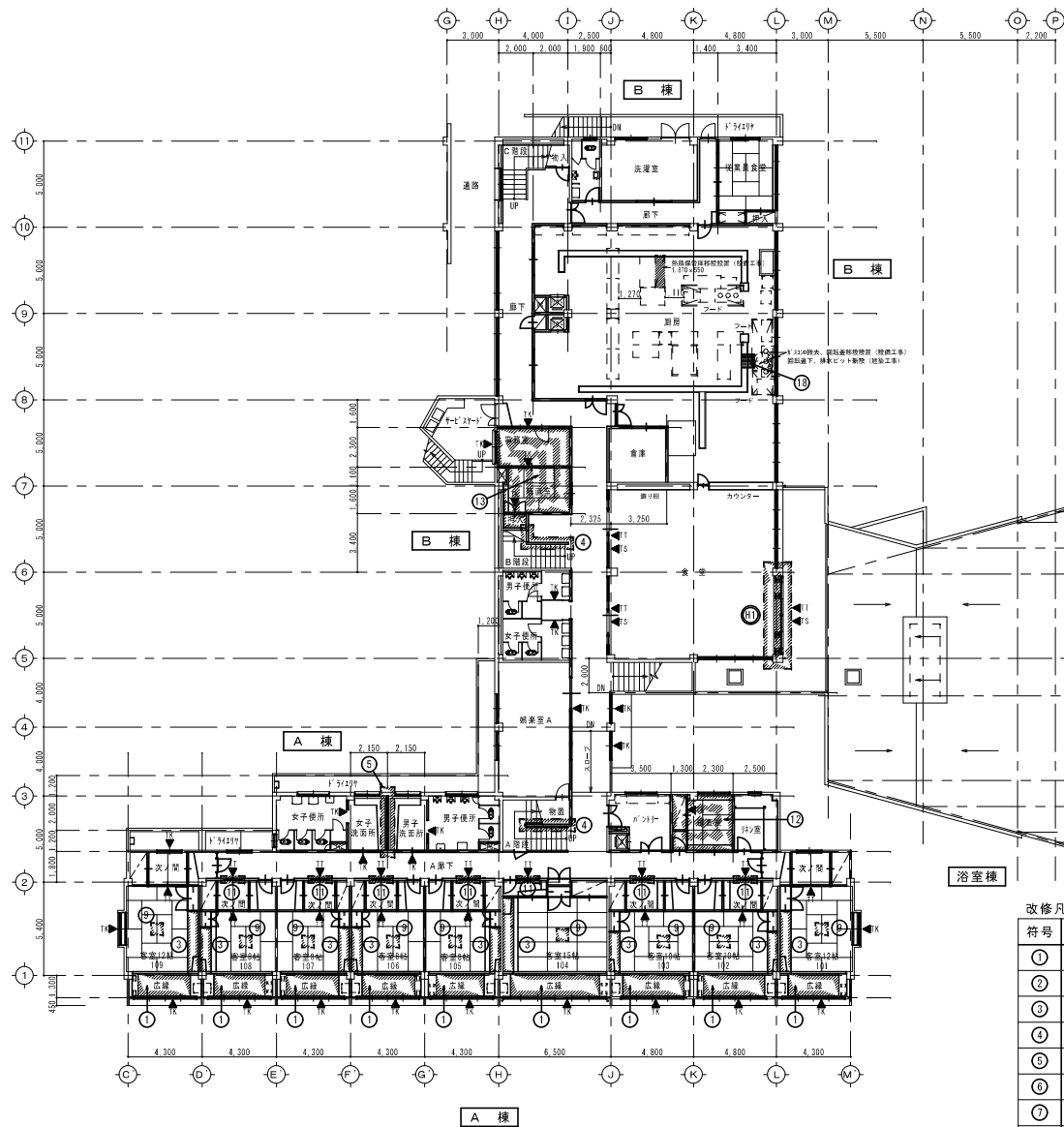


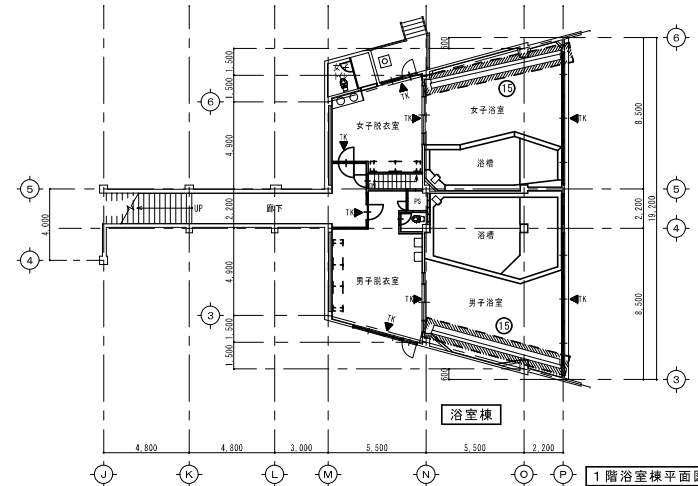
バリケード  
仮設用ガードフェンス  
H:1,800



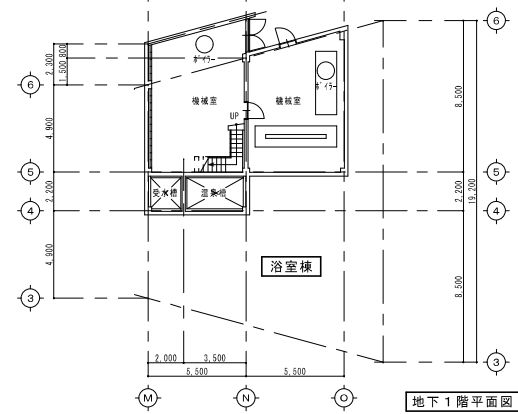
	工事名称	伊豆高原耐震補強及び内部改修工事	縮尺	平成23年 6月 設計	
	図面名称	配置図・案内図	S=1/300		N.O.
					A-01



A・B棟1階平面図 S=1:150



1階浴室棟平面図 S=1:150

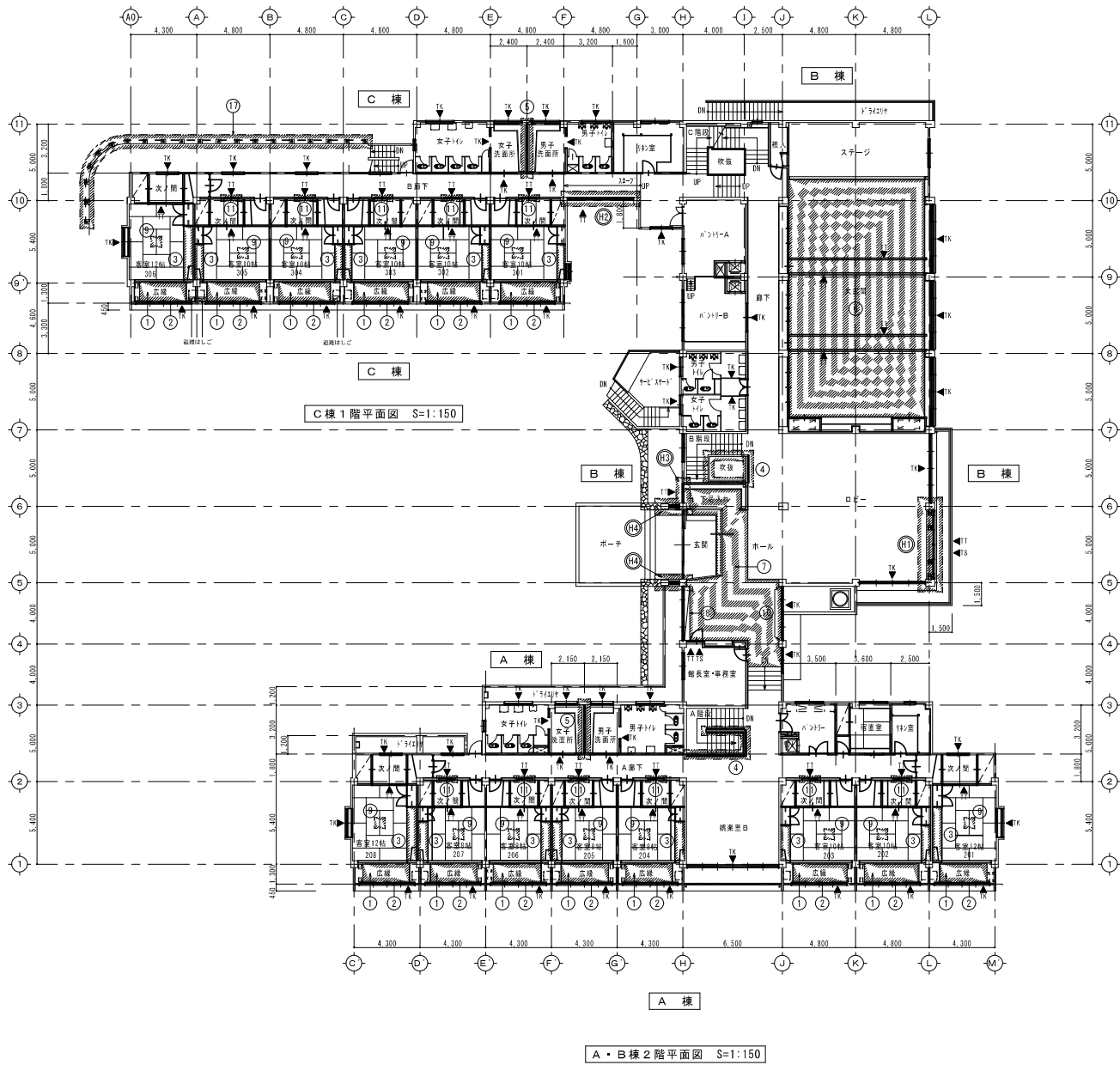


地下1階平面図 S=1:150

浴室棟

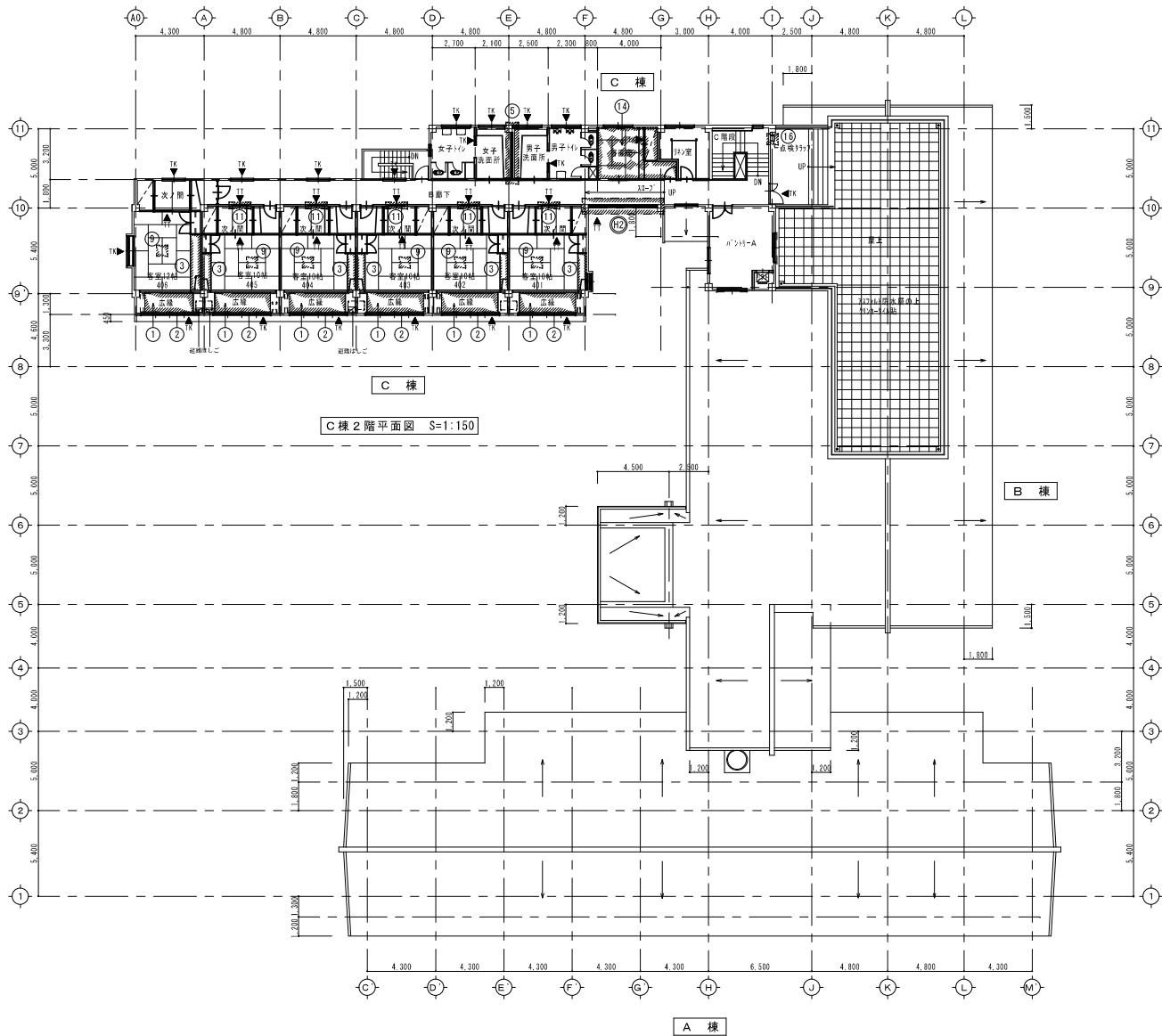
改修凡例

符号	改修工事内容	参照図面	符号	改修工事内容	参照図面
①	客室広縁床、段差解消	A-10・A-11	⑬	C棟2階、宿直室、内部仕上げ改修	A-14
②	客室広縁窓部、転落防止手摺り新設	A-11	⑭	浴室棟、浴室、おし増設に伴うラインゲバツ改修	A-19
③	客室床の間、扉板・樫等撤去	A-13	⑮	C棟2階屋上、スチール点検タラップ、一部撤去	A-13
④	階段転落防止壁新設及び手摺り嵩上げ	A-16・A-17	⑯	C棟北側、総務内進入防止用外柵新設	A-24
⑤	洗面所仕切壁男女貴湯部、開口塞ぎ	A-18	⑰	厨房移設回転釜下、排水ビット新設	A-25
⑥	大広間、既存畳床改修	A-09	▲	既存建具改修	A-21・A-22
⑦	ホール・下足室床改修、下足室壁一部撤去	A-05	▲▲	既存建具撤去	A-23
⑧	木製下足入れ新設	A-05	▲▲▲	建具新設	A-22
⑨	客室天井、照明器具7ヶ所h/h'-脱着防止	A-12			
⑩	窓下腰壁ビニール貼替	既存に①→402撤去、下地調整の上、 ビニール403貼り替え(2.65m×0.75m範囲) シタ音響(7)12.0 S07塗リ(前面) 客室内より器具材料にビス止め	⑱	耐震補強：枠付き鉄骨ブレース増設	A-06 S-01・S-02・S-03・S-04
⑪	客室次の間、地窓開口塞ぎ		⑲	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設	A-07 S-01・S-02・S-03・S-05
⑫	A棟1階、宿直室・内部仕上げ改修	A-14	⑳	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設(開口閉塞)	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06
⑬	B棟1階、事務室・宿直室・内部仕上げ改修	A-15	㉑	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06



改修凡例

符号	改修工事内容	参照図面
①	客室広縁床、段差解消	A-10・A-11
②	客室広縁窓部、転落防止手摺り新設	A-11
③	客室床の間、幕板・棚等撤去	A-13
④	階段転落防止壁新設及び手摺り高上げ	A-16・A-17
⑤	洗面所仕切壁男女共通部、開口塞ぎ	A-18
⑥	大広間、既存畳床改修	A-09
⑦	ホール床・下足置床改修、下足置壁一部撤去	A-05
⑧	木製下足入れ新設	A-05
⑨	客室天井、照明器具7ヶ所ハバ-脱着防止	A-12
⑩	窓下保護ビニ-ル貼付	既存ビニ-ル剥離、下地調整の上、 ビニ-ル貼付替え(3.65m×0.75m範囲)
⑪	客室次の間、地窓開口塞ぎ	シタ合板(7)12.0 SGP塗り(両面) 客室内より裏具移設にビス止め
⑫	A 棟 1 階、宿直室、内部仕上げ改修	A-14
⑬	B 棟 1 階、事務室・宿直室、内部仕上げ改修	A-15
⑭	C 棟 2 階、宿直室、内部仕上げ改修	A-14
⑮	浴室棟、浴室、カシ増設に伴うラコングパ-改修	A-19
⑯	C 棟 2 階屋上、スチ-ル点検タ-ップ、一部撤去	A-13
⑰	C 棟北側、線路内進入防止用外柵新設	A-24
⑱	厨房移送回転釜下、排水ビ-ット新設	A-25
▲TR	既存建具改修	A-21・A-22
▲TT	既存建具撤去	A-23
▲TS	建具新設	A-22
⑨1	耐震補強：待付き鉄骨ブ-ース増設	A-06 S-01・S-02・S-03・S-04
⑨2	耐震補強：鉄筋コンクリ-ット壁増設	A-07 S-01・S-02・S-03・S-05
⑨3	耐震補強：鉄筋コンクリ-ット壁増設(開口閉塞)	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06
⑨4	耐震補強：鉄筋コンクリ-ット壁増設	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06



改修凡例

符号	改修工事内容	参照図面
①	客室広縁床、段差解消	A-10・A-11
②	客室広縁窓部、転落防止手摺り新設	A-11
③	客室床の開、幕板・棚等撤去	A-13
④	階段転落防止壁新設及び手摺り嵩上げ	A-16・A-17
⑤	洗面所仕切壁男女共通部、開口塞ぎ	A-18
⑥	大広間、既存畳床改修	A-09
⑦	ホール床・下足置床改修、下足置壁一部撤去	A-05
⑧	木製下足入れ新設	A-05
⑨	客室天井、照明器具7ヶ所6ヶ所へ脱落防止	A-12
⑩	窓下保護ビニール貼替え	既存ビニール貼替え、下地調整の上、ビニール貼替え(3.65m×0.75m範囲)
⑪	客室次の開、地窓開口塞ぎ	シナ合板(7)12.0 S0P塗り(両面)客室内より建具移動にビス止め
⑫	A棟1階、宿直室、内部仕上げ改修	A-14
⑬	B棟1階、事務室・宿直室、内部仕上げ改修	A-15
⑭	C棟2階、宿直室、内部仕上げ改修	A-14
⑮	浴室棟、浴室、カサ増設に伴うラノックパッキン改修	A-19
⑯	C棟2階屋上、スチール点検タラップ、一部撤去	A-13
⑰	C棟北側、線路内進入防止用外柵新設	A-24
⑱	厨房移送回転釜下、排水ビット新設	A-25
▲TR	既存建具改修	A-21・A-22
▲TT	既存建具撤去	A-23
▲TS	建具新設	A-22
⑪1	耐震補強：待付き鉄骨ブレース増設	A-06 S-01・S-02・S-03・S-04
⑪2	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設	A-07 S-01・S-02・S-03・S-05
⑪3	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設(開口閉塞)	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06
⑪4	耐震補強：鉄筋コンクリート壁増設	A-05 S-01・S-02・S-03・S-06

耐震補強特記仕様書

第一章 工事概要

1. 工事名称 伊豆高原荘耐震補強及び内部改修工事
2. 工事場所 静岡県伊東市八幡野1151-36
3. 工事計画 本工事は、既存の構造体に対して部材を増設することに依って耐震性能の向上及び改善を図るもので、既存躯体との接合が極めて重要である。また、この工事は限られた場所で行われるもので、一般の建築工事は施工方法等相違する面がある。よって、設計の主旨及び最終的な建物の状態を十分理解した上で工法を選び、施工計画をたてなければならぬ。特に、次の点に充分注意すること。
  - a) 躯体寸法、階高寸法その他は実測による。
  - b) 既存コンクリートとの一体化を図る。
  - c) 新設部と既存部材との定着を十分に行う。
  - d) 騒音、粉塵及び汚染など支障を及ぼす範囲をできるだけ小さくする。
  - e) 仕上げ及びコンクリートの除去に際しては、最小限必要な範囲とし、残りの部分を備えない程に十分注意する。
  - f) 既存配管、配線及び器具等を十分調査し、損傷を与えないよう注意する。
  - g) 施工に先立ち全工場の施工計画書を作成し、承認を得ること。各試験は、試験方法及び結果報告を遅滞なく行うこと。なお、施工計画書は工事別ごとに作成すること。

4. 工事内容 本工事の主な補強項目及び箇所数は、下表による。

階	柱付き鉄骨ブレース増設		鉄筋コンクリート壁増設		既存鉄筋コンクリート壁厚増	
	B棟	C棟	B棟	C棟	B棟	C棟
2階	1	0	2	1	1	0
1階	1	0	0	1	0	0
地下1階	0	0	0	0	0	0
合計	2	0	2	2	1	0

※ A棟及び落着室は補強対象箇所無し

第二章 総 則

1. 概要範囲 本工事は、設計図及び本仕様書に基づくものとし、これらの記載無き場合は、次に定める優先順位仕様書に拠ることとする。
  - a) 本特記仕様書
  - b) 『2001年改訂 既存鉄筋コンクリート建築物の耐震基準 耐震診断設計指針解説』(国土交通省建築技術指導課)
  - c) 『公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)』平成22年版(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
  - d) 『公共建築工事標準仕様書(建築工事編)』平成22年版(国土交通省大臣官房官庁営繕部監修)
  - e) これらの図書は、現場標準とする。
2. 証 書 図面と仕様書の内容に相違があった場合や不明な箇所が生じた場合は、すべて監督職員と協議によるものとする。

第三章 撤去工事

1. 撤去工事の施工内容
  - a) 撤去作業に際し、予め事前調査を行い、かつ建物の内外にわたって写真撮影をしておくこと。
  - b) 増設壁等の増設に伴い、これらの増設部材が設置される構面内の既存仕上げ・躯体の撤去と上面等の一部を撤去すること。
  - c) 増設部材と接する既存コンクリートは、充分に目視らしを行うとともに、既存の配筋を確認すること。
  - d) 塗り仕上げまたはこれに準ずる仕上げ材、及び躯体を撤去する場合は、面前からかみで切りをつけてから撤去する。
  - e) 仕上げモルタル又はプラスターを一部撤去する時は、新設コンクリート面より60～80mm程度離れた部分でカットしてはつりを行う。
2. 撤去工事における注意事項
  - a) コンクリート及び塗り仕上げを部分的に撤去する場合は、既存部分の仕上げに損傷を与えないよう充分注意する。特に、垂り仕上げ、増設部材設置構面内の壁コンクリート及び間コンクリート等の撤去に際しては、カッター等で切り込みを付け、既存部分の保護をはかる。
  - b) 増設する部材に接する既存コンクリートは、充分に目視らしを行い、目視らしは、深さ5～10mm程度の凹面を、合計が打壁面の3/4の面積以上、打壁面の場合は打壁面の1/3程度を目安として目視らしを行なう。
  - c) はつり工事は、構造躯体に悪影響を与えない方法で丁寧に行うこと。
  - d) 既存の躯体状態を確認し、補強が必要と認められる場合は、監督職員と協議すること。
  - e) 撤去後、既存の柱・梁・壁・床のジャンク、コールドジョイント、3mm以上が露れた場合は監督職員と協議すること。
  - f) 増設部材がとりつく柱・梁については、中央、端部の3ヶ所をはつり、又は、鉄筋探査器等で配筋状態の確認をすること。
  - g) 既存柱・梁のせん断補強筋の施工不良が発見された場合は、監督職員と協議すること。

第四章 コンクリート工事

1. 材 料
  - (1) 使用材料
    - a) 普通コンクリート
      - 1) 設計基準強度と使用部位は次表のとおりとする。
 

設計基準強度 (N/mm <sup>2</sup> )	使用部位
24, 0	鉄筋コンクリート壁増設
      - 2) 水セメント比65%以下、単位水量185kg/m<sup>3</sup>以下、単位セメント量300kg/m<sup>3</sup>以上
      - 3) レディーミクスドコンクリートは、JIS A 5308に規定する規格品を使用する。なお、セメントは、ポルトランドセメント(JIS R 5210)を用いるものとする。
      - 4) 流動化混和材を使用する場合は、監督職員の承認を受ける。
      - 5) 骨材の最大寸法20mm以下
      - 6) スランプ 18 ± 2.5cm以下  
空気量 4.5 ± 1.5%以内  
塩化物 0.3kg/m<sup>3</sup>以下
      - 7) 型枠  
型枠は、打直し用複合針葉樹を使用する。
    - b) 2) 試験・確認等
      - 1) 施工者の責任において、試験体を作成し圧縮試験の検証を行う。試験体はJIS A 1132に準じ材料7日3本、28日3本を、施工1日後に作製する。試験体は、JIS A 1108に準じ公的機関で行う。試験を行う機関は、監督職員の承認を受けること。

第五章 鉄筋工事

1. 鉄筋
 

鉄筋は、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒筋)に規定する規格品を用いる。鉄筋の種類と使用箇所は次表のとおりとする。

種 類	径	使用箇所
SD295A	D16以下	図示による
SD345	D19以上	図示による
SR235	6φ	各種強壁に用いるスパイラル筋
2. 鉄筋の継手
 

鉄筋の継手は、D16以下は重ね継手、D19以上はガス圧接による。圧接作業は、JIS Z 3811による資格を有する者および日本溶接協会等の認定した溶接工が行うものとする。

第六章 アンカー打設工事

1. アンカー
  - a) アンカー
 

接合筋は、JIS G 3112(鉄筋コンクリート用棒筋)に規定されるもの、除開圧延異形棒筋 SD295A、SD345規格品、金糸ボルトはJIS B 0205(メーテル並目ねじ)SS400とする。

頭部は、ネジ切り加工し、ナット取り付けのこと。

ナットからネジ山を三山以上確保する。

アンカーは、カプセルガラス管型樹脂アンカー(ポリエステル系)又は、アクリレート系)を基本とする。

カプセルガラス管型樹脂アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会が定める規格品とする。

カプセルガラス管型樹脂アンカーは、(社)日本建築あと施工アンカー協会が定める規格品とする。

旭化成工業株式会社 : ARケミカルセッター APシリーズ  
 前田工機株式会社 : ポルトメント TGTタイプ  
 日本テックシステム株式会社 : ケミカルアンカー RTタイプ

2. 試験・確認等
 

使用材料の内、次のものは施工業者の責任において工事検査・試験を行う。

  - a) カプセルガラス管型樹脂接着アンカー(全数打音確認)  
カプセルガラス管型樹脂接着アンカー(引張試験)  
引張試験は、各種強度1枚当たり1柱1箇所(梁1箇所)について試験を行う。場所は、監督職員の指示による。

◎アンカーの試験強度は、次表による

径	確認強度 (kN)	備 考
D19	48.0(梁)	KBR1, KBR2
	44.0(柱)	W20A, W20B
40.0(梁・柱)	44.0(基礎)	W25A

- a) アンカーの埋め込み深さは、8d以上とする。  
\*鉄筋の径が、規準以上厚い場合は、監督職員の指示を受けること。
- b) アンカーの定着長さは20d以上とする。
- c) 鉄骨系の補強の場合、アンカーとスタッドの重ね長さは表のとおりとする。

997 557 N	あと施工アンカー <必要1m>	頭付きスタッド <必要1m> [長さ]	557 長 L
160	D16または16φ(96)	16φ77(96) 110 [120]	60
200	D16または19φ(114) D22または22φ(132)	16φ77(96) 19φ77(114) 19φ77(114) 140 [150]	80
250	D19または19φ(114) D22または22φ(132)	19φ77(114) 19φ77(114) 190 [200]	130

- f) 埋留接着アンカー部の穴開けドリルは、JIS C 9605(換算用電気ドリル)に規定するものを用いることを原則とし、穴の周辺にコンクリートに損傷を与えないものでなければならない。注水しながら穴開け作業を行う場合は、作業終了後穴の中のコンクリートが十分乾燥するように熱風送気などの措置を講ずる。作業途中で中止した際には、充填モルタルまたは、充填用樹脂接着剤を用いて充填補修を行う。

第七章 枠付き鉄骨ブレース増設工事

1. 材 料
  - (1) 使用材料
    - a) 鉄 骨
      - 1) 鋼材は、JIS G 3136に規定されているSN490B規格品とする。
      - 2) 頭付きスタッドはJIS B 1198に規定されている規格品とする。
      - 3) 高力ボルトは、トルシヤ型高力ボルト2種(S10T)とする。
      - 4) 鉄鋼面錆止め塗料の種類はA種とし、JIS K 5625シナマド給き止めペイント(2種)2回塗りとす。
      - 5) アンカー  
第六巻に準ずる。

2. 試験確認等
 

使用材料の内、次のものは施工業者の責任において工事検査試験を行う。

  - a) 頭付きスタッド(溶接部の曲げ試験)  
曲げ試験は、両面に付き一方向行う。  
頭付きスタッドの角度が垂直から30°になるまでハンマー又はその他適当な方法で曲げる。曲げ方向は、溶接部の外側に欠陥がある場合、その部分に最大引張力がかかるよう曲げる。
  - b) カプセルガラス管型樹脂接着アンカー(全数打音確認)  
カプセルガラス管型樹脂接着アンカー(引張試験)  
引張試験は、各種強度1枚当たり2本の試験を行う。場所は、監督職員の指示に従う。

2. 施工内容

- a) 既存躯体の測定とスミ出し
- b) 鉄骨の加工組立(工場で行う)
- c) アンカーを差し、樹脂接着系アンカーを設置する。
- d) 清掃
- e) 鉄骨建て方
- f) 型枠組立
- g) 無収縮モルタル圧入
- h) 型枠撤去及び清掃

3. 施工上の注意事項

- a) 鉄骨の加工に先立ち、既存躯体の寸法等の実測を行い、工作図及び原寸図を作成し、承認を受ける。
- b) 埋留接着アンカーは、使用頻度が多く信頼性が高いものを用いること。又、コンクリートドリルの歯は、増設アンカーに適したものを採用すること。この場合ドリルの先端に、鉄筋探査器等で既存鉄筋及び配管の位置を確認し、それらの位置をきつてドリル施工を行う。
- c) 鉄骨の製作工場は下記以上とし、監督職員の承認を受けること。  
\* 社団法人 全国鉄構工業協会 : Mグレード以上  
\* 株式会社 日本鉄骨研センター : Mグレード以上  
\* 東京府鉄骨加工工場協会の承認 : 分類1
- d) 鋼材の溶接部分については日本建築学会の鋼造建築溶接部の超音波探傷検査基準(JIS Z 3060)に規定する検査を行う。検査機関は、当該工事の鉄骨製作工場に所属しないものでかつ、当該工事の品質管理の試験を行っていない試験機関とする。また、溶接部分の超音波探傷試験に際して、当該工事に相応した技術と実務を有するものとし、試験機関の組織体制、所有探傷機器、試験技術者、試験の実績等により、監督職員の承認を受ける。
- e) 超音波探傷試験を行う技術資格者は、JIS Z 2305(非破壊検査を併せ溶接部分の100%について行う)鉄骨の竣工にはクレーン等を用い、挿入した後、設置位置に吊り止め保ち止める。
- f) 耐震補強筋は図面に従い、スパイラル筋と整合と配筋する。
- g) 現場突き合わせ溶接箇所については、鉄骨製作工場に当該溶接を行い、溶接精度の確認を行なうこと。

第八章 既存柱鋼板巻き立て補強工事

1. 材 料
  - (1) 使用材料
    - a) 鋼 板
      - 1) 鋼材は、JIS G 3136に規定されているSS400規格品とする。
2. 施工内容
  - a) 既存躯体の測定とスミ出し
  - b) 鋼板の加工(工場加工)
  - c) 鋼板組立
  - d) 無収縮モルタル圧入

3. 施工上の注意事項

- a) 鋼板の加工に先立ち、既存躯体の寸法等の実測を行い、工作図及び原寸図を作成し、承認を受ける。
- b) 鋼板の製作工場は、第七章 3. c) に準ずる。
- c) 現場突き合わせ溶接部分は半自動溶接とし、JIS Z 3801におけるA-2以上の技術を有する資格者により行うものとする。
- d) 鋼材の溶接部分については、第七章 3. d) に準ずる。
- e) 鋼板の組立にはチェーンブロック等を用い、設置位置に吊り込み止め止める。
- f) 鋼板は曲げ加工とし、角部に半径が板厚の3倍以上となるアールを設ける。

第九章 鉄筋コンクリート壁増設工事

1. 材 料
  - (1) 使用材料
    - a) 既存躯体の測定とスミ出し
    - b) 既存柱面及び地中面にアンカーを差し樹脂接着系アンカー設置後、重合筋を完成
    - c) 鋼板の加工及び組立
    - d) 清掃及び水濯
    - e) 型枠組立
    - f) コンクリート打設
    - g) コンクリート養生
    - h) 無収縮モルタル圧入
    - i) 型枠撤去及び清掃
    - j) 圧縮試験
2. 施工内容
 

第四六巻に準じて実施する。
3. 施工上の注意事項
 

補強壁増設工事は次の各項に留意して行うこと。

  - a) 型枠等の加工に先きかけて、既存躯体の寸法等の実測を行い、これらの納まりが確実にあるよう充分注意を怠らぬ。
  - b) 型枠は、一般の型枠と異なり、コンクリート打設時に型枠の移動が生じたり、セメントペーストが流失する恐れがあるので、サポート及びバックアップ等を用いて十分注意を払う。
  - c) コンクリートの打設は、パイプレーダー等を用いて密実なコンクリートとする。
  - d) コンクリート強度の表現中(7日間程度)は、常に湿潤養生を行う。又、養生期間中は、振動等を与えないよう十分に注意する。
  - e) 膨張性薬剤については、用いてもよいものとし、材料・配合量については監督職員と協議の上決定すること。

第十章 無収縮モルタル 圧入工事

無収縮モルタル圧入工事は、メーカーの責任施工とし、次の各項を遵守して行うこと。

- a) 無収縮モルタルは、既存躯体との空隙を密実に充填できるものとフリージングが少ない事、流動性が良好で施工性が高いものを使用する事。
- b) 圧入モルタルは単独特殊セメント系無収縮モルタルとし、割合はセメントとスミとする。割合時の配合はアルミ羽根の機軸は硬くしない。
- c) 材料は下記メーカー、もしくは同等品以上とする。  
\* 太平洋マテリアル(株) : プレウロックスM  
\* BASFポリスター(株) : マスターフロス40 グラウト  
\* 電気化学工業(株) : テンカレスタコン T-1  
(株) ABCコンクリート : ノンシュリンクライト グラウト
- d) 事前に詳細な施工要領書を監督職員に提出し承認を得る。
- e) 打ち込み前に、既存コンクリート表面及びコンクリート打ち継ぎ面の清掃及び水濯を充分に行う。
- f) 圧入は適切な圧力で中断しないよう行う。
- g) グラウト孔を、スパン中央部より上部に空気抜きを上部スパン両端部等に設ける。
- h) グラウト孔にロースを接続し、連続圧注を行う。グラウトモルタルが空気抜きまで入ることを確認した段階で圧入を中断し各空気抜きパイプを確認した後再びグラウトを行う。作業を終了する。
- i) グラウトモルタルの割合は下表を標準とする。

設計強度は30N/mm<sup>2</sup>以上とする。

	1m <sup>3</sup> 当たりの		落下値 J140t
	標準使用量 (kg)	使用水量 (kg)	
プレウロックスM	192.5	28.1	8 ± 2
マスターフロス40グラウト	200.0	25.6 ~ 31.2	6 ~ 1.0
デンカレスタコン T-1	187.5	3.8	8 ± 2
ノンシュリンクライトグラウト	187.5	3.8	8 ± 2

- j) モルタル圧入部の型枠は注入圧力に耐え得るグラウト用とし、周囲に各種化学薬品等がコンクリートを施し、モルタル漏れの無いようにする。
  - k) モルタルグラウト型枠の取り外し時期については、監督職員の指示による。
  - l) 施工時及び養生期間中(7日間以上)は、常に湿潤状態を保ち、モルタルの温度が5℃以上を確保し、又、施工時には水温の管理を充分に行い、水温10℃以上にて施工する。
  - m) 圧入モルタル硬化中は圧入口、空気抜きパイプ等の密接(バルブ)業者を承認し、有害な振動を与えない。
  - n) 施工業者の責任において試験体を作成し、公的機関で試験を行う。試験は、1日施工する毎に、J140t試験を行い、圧縮試験体を作成する。試験体は径50mm、高さ100mmの大きさとし、材料7日3本、28日3本とする。
- 圧縮試験はJIS A 1108(圧縮強度の試験方法)により行う。コンスタンション試験は、日本道路公団「無収縮モルタル基準」に示されている、コンスタンション試験方法による。試験は、ロード法とし、ロードはJ140tとする。

工事名称	伊豆高原荘耐震補強及び内部改修工事	縮尺	平成23年 6月 設計
図面名称	耐震補強特記仕様書		
			No.
			S-01